

HODAKAのシステム断熱等級判定

邸名: 穂高 太郎 様邸 建築地 宇治市広野町〇〇〇

現況

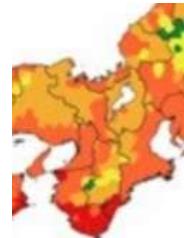
部位	断熱材種	各部熱還流率 W/(m ² ·K)	各部熱損失 W/K	外皮平均熱貫流率 Ua値 W/m ² K
2階	天井	グラスウール10k100mm	0.45	2.20
	外壁	無断熱	3.22	
	窓	アルミサッシ複層	4.65	
1階	下屋天井	グラスウール10k100mm	0.45	2.20
	外壁	無断熱	3.22	
	窓	アルミサッシ複層	4.65	
	床	発砲プラスチック系25mm	1.17	

※★印の断熱材、サッシは断熱材は断熱改修で使用する断熱材です。
※本計算に用いた建物は、各種シミュレーションに最適なサンプルプランを使用しています。実際のお客様のご自宅の建物で弊社が行う「省エネ診断」結果と若干数値が異なる場合があります。

総熱損失	断熱性能等級
666.94	2
W/K	1980年制定旧省エネ基準相当

		断熱地域と等級ごとの要求Ua値						
		1	2	3	4	5	6	7
等級	等級7	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26
	等級6	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46
	等級5	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60
	等級4	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87
	等級3	0.54	0.54	1.04	1.25	1.54	1.54	1.81
	等級2	0.72	0.72	1.21	1.47	1.67	1.67	2.35
	等級1	—	—	—	—	—	—	—

- 4 地域
- 5 地域
- 6 地域
- 7 地域



断熱地域区分と断熱等級ごとに求められる外皮平均熱貫流率Ua値

外皮平均熱貫流率Ua値は建物からの熱の逃げにくさを表す数値で、数値が小さいほど断熱性能が高い、断熱性能等級も高い建物といえます。

各断熱性能等級に必要なUa値は断熱地域ごとに定められています。

上右図は近畿圏の断熱地域区分を示す地図で、宇治市や京都市など京都府南部は6地域、京都府北部や滋賀県は5地域になります。

断熱地域の数値が小さくなるほど寒冷地になります。

HODAKAのシステム結露発生判定（冬季）

※サッシガラスの冬季における結露発生の可能性を判定します。

部屋面積	30 m ²	天井高さ	2.4 m
室温	24 °C		
サッシガラスの種類		アルミサッシ複層	
判定	× 結露が発生します。		

※外気温に対して室温を高くすると結露が発生しやすくなります。また、石油ストーブやガスファンヒーターなどで暖房すると水蒸気が発生するので結露が発生しやすくなります。1時間に1回程度、お部屋の空気の半分を入れ替える感じで換気を行って、お部屋の湿度と外気の湿度を同程度にすれば結露防止になります。